

# 来ふらり73

大勢の新生の皆さんを迎え、花と若葉に彩られたキャンパスは活気に満ちています。新生の皆さんもいまは、新しい大学生活をはじめのために一生懸命で大変忙しいでしょう。どの講義を受講しようか色々と検討をしていると思います。

大学生の生活では、時間割りのすきまや突然の休講、あるいは講義が思いがけず早く終わったとき等々、ちょっとした空き時間が出来るのがかなりあります。今がそうだという人もいるでしょう。そんなときは大学図書館に行きましょう。木立に囲まれた落ち着いた雰囲気の良い建物です。

大学図書館では気軽に本が読めます。多くの新聞も備わっています。今日の新聞も古い新聞も読めます。週刊紙や雑誌も有ります。少し脇には書棚が並んでいて、沢山の本を手にとって立ち読みしながら選んで、気に入った本を探ることが出来ます。

気になる本が見つければ、直ぐに閲覧席で読みふけることが出来ます(ここが町の書店の店頭での立ち読みと違うところだ!)。閲覧席は静かで落ち着いています。時間があまりなければ、見つけた本を借りる事も出来ます。気に入った本が見つ

## 新生諸君、大学図書館に行こう

図書館長 藤原大輔 (理学部教授)

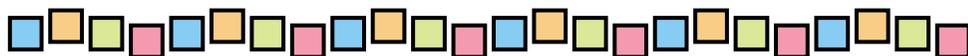
からないが時間が十分有るときは、新聞のコーナーで新聞の書評欄を読むという方法もあります。書評記事によって面白そうな本を探し出すことが出来るでしょうし、また、書評欄の評者の個性的な意見を楽しむこともできます。気に入った本が見つからなくても、気持ちのいい時間を過ごすことになります。何にしても肩肘張らない気楽な読書は実に楽しいものです。

友人から噂を聞いていた本や、普段から広告や新聞の書評欄などで読みたいという目当の本を決めて図書館に行く人もあるでしょう。講義やゼミで奨められた本を読むために行く人も多いでしょう。このようなとき、その本がすぐ見つければ良いですが、簡単には見つからない場合も有るでしょう。そのときは気軽に図書館の人に相談にのってもらいましょう。図書館のカウンターの人も利用者からの相談を待っています。最悪の場合、目当ての本が図書館に無い場合もありますが、そのときは、その本を購入してもらおう希望を図書館のカウンターの人に伝えて下さい。真剣に検討します。

時間の空きができたなら気軽に大学図書館に行くことにしましょう。

# 食 つて 撃 つて 去 った パン ダ

真野泰（英米文学科助教授）



三度の飯より駄洒落が好き、という人がいますね。年賀状に「羊が去って猿が来る。来るのに猿とはこれいかに」とか、「今年は猿人全開でがんばります」とか書かずにいられない人（compulsive punster）です。

うちの小学校三年になった息子も大好きです。お気に入り、雑誌で覚えたらしい「狼がトイレに入って、おー、紙がない」。便座に腰かけたまま困り顔をした狼が目に見え、名作です。内容はきれいじゃありませんが、形式は5・7・（おー）・5とじつに美しい。

これに対抗できるのは下の息子が幼稚園で教わってきた「バツタがトイレでふんばった」くらい。こちらは7・5ですね。緑色のバツタが顔を赤くして息んでいるところを想像すると可愛い。共通するのは動物とトイレという取り合わせの妙と、落ちを最後まで明かさないうたのよさでしょうが、擬人化してイメージしやすいという点で狼に軍配を上げたい。狼ならドアノブを回してトイレに入るところも思い描くことができる。

さて、狼でもバツタでも、猿人全開でも、来るのに去る猿でも、学習院大学の全教職員および全学生の英知を結集して4年の歳月をかけても外国語に翻訳することはできません。なぜなら、言葉とは意味を背負った音の

ことですが、その音と意味との間に必然的な関係はなく、だから世界には異なる言語がたくさんあるのであり、翻訳で伝えることができるのは意味のみだからである。エヘン。

ぼくはイギリスの小説を翻訳するのが好きですが、洒落が出てくるといつも頭を抱えます。こんな本、翻訳なんか始めるんじゃないかとすぐに後悔する。ですから、友人や子供の言葉遊びを耳にするたび、翻訳の限界ということ思い出します。こないだ、次のような英語のジョークを知ったときもそうでした。動物づくしの最後はパンダです。

あるカフェにパンダが入ってきた。注文したサンドイッチを食べおわると、やおらピストルを抜いて三発撃った。悠然と店を去っていくパンダの背後から、「なぜ、そんなことをする」とウエイターが聞く。パンダは「これを見な」と言って、野生動物ミニ百科を投げよこす。「おれはパンダだ。引いてみな。」ウエイターがパンダのところを開くと、たしかに書いてある。「中国に棲息する熊に似た白黒の哺乳動物で、eats, shoots and leaves.」

いらぬコンマが打たれたために、名詞のshoots（若枝）とleaves（葉っぱ）が動詞に化けちゃったんですね。

## 真野先生の翻訳書が読みたい！

- |                 |              |         |                     |
|-----------------|--------------|---------|---------------------|
| 『ウォーターランド』      | グレアム・スウィフト原作 | 新潮社     | 2002年（開架：933 / 592） |
| 『ラストオーダー』       | グレアム・スウィフト原作 | 中央公論社   | 1997年（開架：933 / 593） |
| 『夢みるピーターの七つの冒険』 | イアン・マキューアン原作 | 中央公論新社  | 2001年（開架：933 / 594） |
| 『時間のなかの子供』      | イアン・マキューアン原作 | 中央公論社   | 1995年（開架：933 / 596） |
| 『スターズ・アンド・パーズ』  | ウィリアム・ボイド原作  | 中央公論社   | 1993年（開架：933 / 595） |
| 『世俗の聖典：ロマンスの構造』 | ノースロップ・フライ原作 | 法政大学出版局 | 1999年（開架：902 / 65）  |

# 本はどこからやってくるのか??

—— 選書の仕事Q&A ——

大学図書館 運用課 樋口 佳奈

皆さんは、大学にある本がどのように選ばれているかをご存知ですか？  
ここでは、私が昨年度担当した「選書」の仕事を、皆さんの立場になって、Q&A形式でご紹介します！

## Q1 そもそも「選書」ってどんな仕事？

具体的にいうと、「大学図書館でどのような本・資料を購入するかを選定する業務」です。

## Q2 選書はどのような人が行なうのですか？

各図書館で異なりますが、大学図書館では図書館職員で構成する「選書委員」が行ないます。主にベテラン職員で構成されますが、昨年度は若い意見を取りいれるべく、新人の私も選書委員に選ばれました。（昨年度の選書委員は6名でした。）

## Q3 どの位のペースで選書は行われるのですか？また、年間で何冊位購入していますか？

選書は2週間に1度、年間では約20回行なっています。ちなみに1回の選書では、平均単価3000円の本を約150冊、購入しています。ただし、大学図書館の本を購入する費用（いわゆる図書予算）は学習院大学全体の図書予算の、わずか1割程度。この限られた予算の中で、いかに良い本を選ぶか...これが選書委員の腕の見せ所です。

## Q4 どのようにして購入する本を選ぶのですか？

基本的には担当者ごとに担当分野を割り振って選書を行ないますが（例えば「文学」「歴史」など）、最終的には選書委員全員の合致で購入を決定します。また、本の選定には、図書新聞等の専門誌や書評、パンフレット、HP等を参考にしたり、書店で実物を見る...等さまざまです。

## Q5 学内にある他の図書館との切り分けは？

大まかにいうと、大学図書館では、学習参考書・教養書やレファレンス資料（辞書等）を中心に、基本的図書や学際的領域の図書を購入しています。一方、各学部・学科図書室では専門書を中心に購入しています。

## Q6 何だか大学図書館にある本は、堅くて古い本ばかりじゃないですか...？

いいえ、そんなことはありません！上記のとおり、新しい本は定期的に購入していますし、その他、「ベストセラーズコーナー」で話題の本を購入したり、「リクエストコーナー」では皆さんからの購入希望も受け付けています。時間がある時は、ぜひ書棚をブラウジングしてみてください。思わぬ掘り出し物に巡り合えるかも？！

## 最後に～\*\*\*

昨年一年間、選書業務に携わり、その奥の深さや難しさを実感しました。自分の好きな本を選ぶことは全く異なるため、各学部学科の授業内容の把握や、書架をブラウジングして蔵書構成を確認し、また一方で書評等の情報収集や、実物を見に書店にもよく足を運んでいます。書店で紙を片手に怪しげな動きをしている人がいたら・・・それは私かもしれません！カウンターに立った際、自分の選んだ本を学生が借りていると、まさに「大当たり！」と、役に立てたことに大きな喜びを感じます。

大学図書館は大学のものだけでなく、「みなさんの図書館」です。学習院大学にない資料等は他大学から取り寄せたり、閲覧に行くことも可能ですが、是非それと同時に図書館1階にある「購入希望」も出してみてください。図書館員も気づかない良書、そしてあなたが選ぶ本を、必要としている人が他にもいるかもしれませんね。

## 大学図書館館内ツアー、OPACセミナーのご案内

授業で課題が出されたり、レポート提出を求められたとき、ゼミで発表しなければならないとき、それこそ試験のとき、人より一歩先んじて図書館を味方しておくこと心強いはずです。

下記の企画に、ぜひご参加ください。

大学図書館 館内ツアー	大学図書館館内施設および基本的サービスを案内します。図書館の使い方を覚えよう。	4月19日(月)～4月23日(金) 毎日 16:20～17:20	集合場所: 大学図書館1階カウンター前
OPACセミナー	学内所蔵資料の探し方を教えます。今までうまく探せなかった人もこれでOK。	5月10日(月) 5月12日(水) 5月14日(金) } 16:20～17:20	実施場所: 大学図書館3階 第2コンピュータ利用閲覧室
院生個別相談会	ゼミなどで後輩たちの文献指導を担当している院生の皆さんへ! 図書館がバックアップします。	随時 (要事前連絡)	連絡先: 大学図書館2階 レファレンス・カウンター

いずれも原則として事前申込制です。ただし、当日の飛び入り参加が可能な場合もあります。

なお、日程および場所に変更があった場合は、掲示でお知らせします。

また、上記日程に参加できない方には個別対応をしますので、2階レファレンス・カウンターにご相談ください。

# ピョートル大帝の詔勅集

貴重書紹介



ピョートル大帝(1672 - 1725)の名前を聞いたことがありますか。フランス革命、イギリスの産業革命、ドイツの宗教改革に匹敵するといわれるロシア近代化を強力に成し遂げたロシア帝国初代皇帝です。身長は2メートル強。自らスウェーデン、イギリス、オランダなどに出かけて先進国の制度を研究した上で、自国をエネルギーに改革しました。

そのピョートル大帝が在位後半の1714年から1725年の間に出した命令・布告(詔勅)を集めたものが1739年に出版されました。その後何回か再版されましたが、1739年3分冊で発行された最初の版を学習院大学図書館は所蔵しています。索引を含めて計1022ページに762件(1714年:33件1715年:22件、1723年:152件、1724年:106件等)の命令・布告が載っているこの蔵本は世界の中でも希少なもので、明治43年(1910年)に当時の乃木希典学習院長と親交のあった大庭景秋氏(ペンネーム大庭柯公)から寄贈されました。

百年まえ、大庭氏が通訳を務めた日露戦争は、ピョートル大帝がその200年前に創設したバルチック艦隊を打ち破って、日本が勝利しました。その後大庭氏は革命直後のロシアへ渡りましたがスパイ容疑で投獄され行方不明に。70年を経てソ連崩壊後の1992年にロシア政府から大庭氏の名誉回復の通知が新聞社あて届きました。(『大庭柯公研究資料』参照)

日露戦争百年に因んで、ピョートル大帝研究の原資料として貴重なだけでなく、日本とロシアの歴史のさまざまな断面を思い起こさせる1冊を取り上げました。

(Указы)

本を開くと

大学図書館 運用課 広瀬淳子

「来ぶらり」のバックナンバーは大学図書館ホームページ (<http://www.glim.gakushuin.ac.jp/>) で公開しています。

来ぶらり No.73 2004年 4月1日発行

発行責任者: 藤原大輔 編集委員: 川中はるか・山本有里

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

☎03-3986-0221(代) 内239㉞(参考) 内239㉟(閲覧) 03-5992-100㉞(閲覧直通)